

第 53 回熊本母親大会報告— “ある日突然、ではない”

第 53 回熊本母親大会が 6 月 1 日(日)熊本市民会館で開催されました。午前中は 6 つの会場に分かれて分科会が行われ、午後の全体会では記念講演とヴァイオリンコンサートが行われました。熊本大学教職員組合からは参加 1 名でしたが、組合 OB たちが元気に参加していました。

<分科会>人間らしく働きたい—パート・派遣・男女平等—

自己紹介を兼ねた現状報告から始まりました。参加者は看護師、元看護師、元教師、事務職、倒産を経験した人、中国人実習生など約 20 名です。

最初に「看護師二交替制」問題が取り上げられました。二交替勤務の方からは「勤務の後は休日になるので二交替のほうがよい。だけど病気になっても交替してもらえない」。三交替の方からは「残業が月 40~50 時間」「看護師の年齢層が高い。40 代、50 代がたくさんいる」、「勤務と勤務の間は 12 時間空けることになっている」「看護師 OB だけど、三交替だったから定年まで働けた」「三交替でも座る暇がなかった、長時間勤務になったら身体が持たない」というような意見が出されました。

熊大病院でも、前回試行の後に病院側がアンケートをとっていますが、「条件付二交替賛成」が 7 割に上っていました。三交替勤務が過酷過ぎるので、二交替の方が「今よりマシ」と考えるのだと思います。熊大では勤務と勤務の間を 5 時間空けると労使協定を結んでいます。他の病院では間を 12 時間空けたり、夜勤協定を結び夜勤回数について月 1 回労使で話し合うというところもありました。

人間らしく働くとはどういうことでしょうか。夜勤がある看護師には無理な話かもしれませんが、私は夜に寝ることが大前提だと思っています。健康で、安心して、定年まで働ける職場があることは大事なことです。単純に「二交替・三交替、あなたはどっち」とアンケートを取るのではなく、どんな風に働きたいか、どんな職場にしたいか、きちんと議論することが必要だと思います。看護師増員、労働条件の改善が急務であるとの思いを強くしました。

<全体会> “ある日突然、ではない”

来賓挨拶の後、特別決議、大会アピールと続き、安仁屋政昭沖縄国際大学名誉教授が「沖縄戦から学ぶもの」と題し、記念講演を行いました。

沖縄戦が全国的な関心を集めている。太平洋戦争を肯定している人たちにとって、南京大虐殺はなかった、従軍慰安婦はなかった、集団自決は軍の命令ではなかったというのが三点セットだそう。戦争体験者の証言が必ずしも真実を伝えているとは限らない、もっと広い視野で見えていかないといけないと集団自決のこと、平和の礎の空白部分のこと、昭和天皇のことなどを例に話されました。

資料「東アジアの中の沖縄の位置」は沖縄を中心にすえた地図です。沖縄からは鹿児島より台北が近い。福岡と上海はほぼ等距離にあり、東京とマニラもほぼ等距離。ソウル・ピョンヤンは東京より近い。沖縄の米軍基地がベトナム戦争・湾岸戦争において重要な役割を果たしましたが、地図を見れば納得がいきます。アメリカは沖縄の基地を手放さないだろうと改めて思いました。

沖縄戦は沖縄だけの問題ではない、「ある日突然ではない。徐々に徐々に向かっていき、気がついたら戦場のただ中に置かれていたんです」と振り返ります。そして、戦争体験は地を這う虫を調べるように細かく調べるだけでなく、大空を見るように大局を見る視点で記録し、大事に次の世代に伝えていかないと締めくくりました。

熊本大学教職員組合

No.4

2008. 6. 9

女性部会ニュース

TEL 342-3529 FAX 346-1247

mail: ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp

